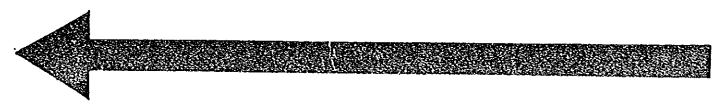




A0

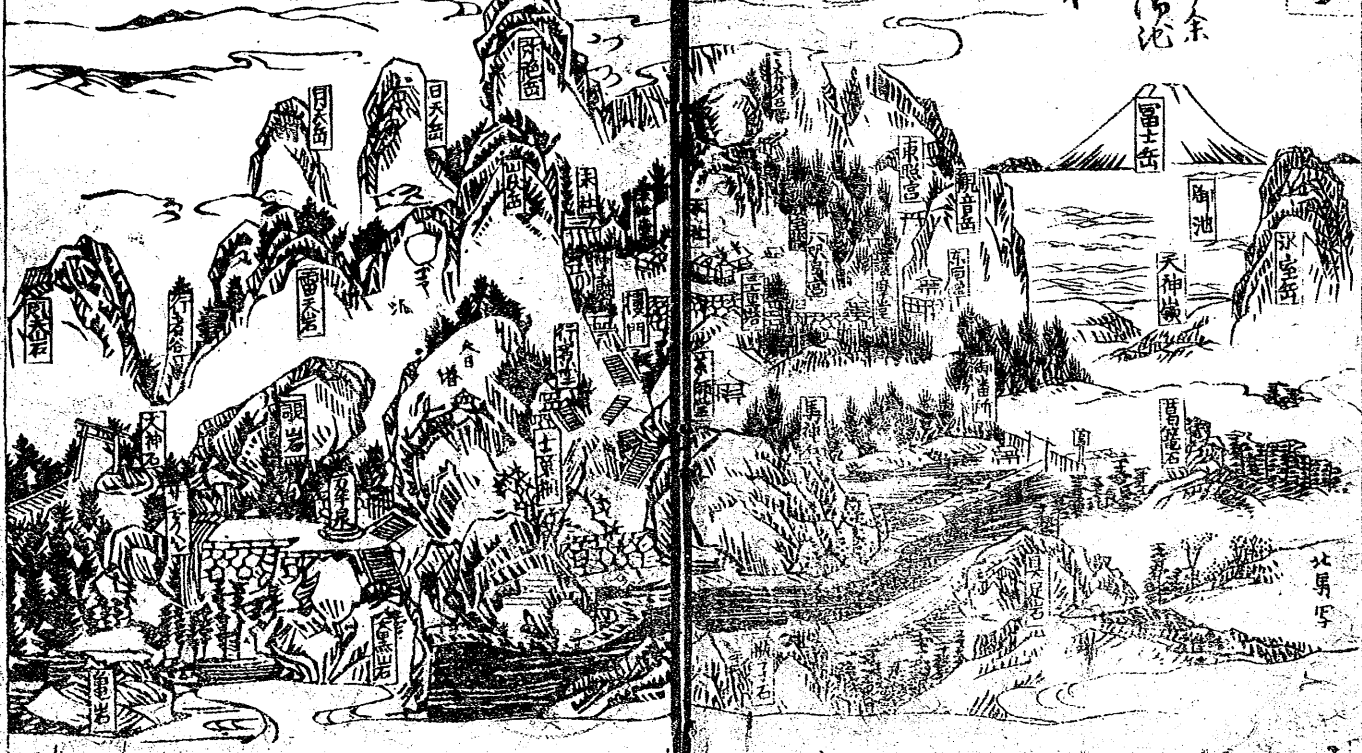
29



榛名山畧図

二王門より
 市宮より四丁余
 寺ありより法池
 まで十八丁
 市神殿いふ
 思ふく二丁
 境内三丁
 四方のうら
 名嶽四十八
 名石四十八
 故より内来
 甚き一王門
 より法池
 大戸

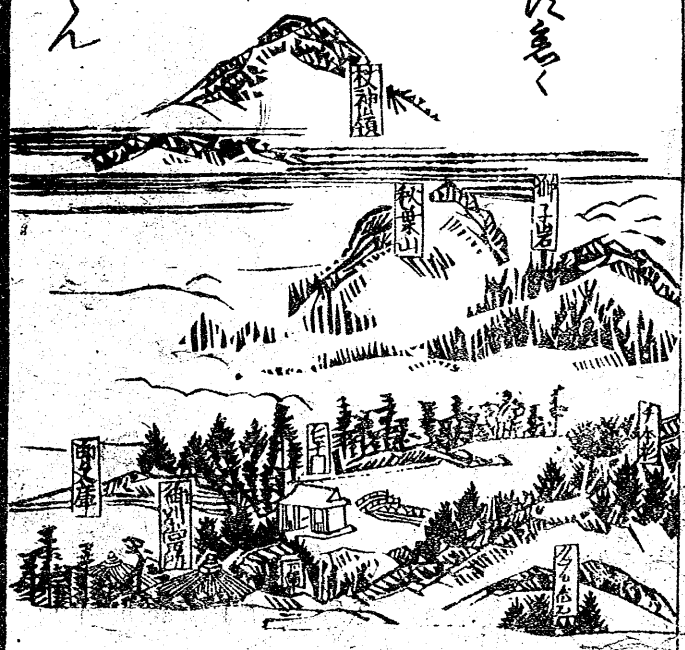
杖神宮三丁
 表色
 室田原
 牛玉橋
 又十丁西交
 松井田原
 明神界を
 是り止丁
 言寄色
 等論及
 三丁
 公石



北見写

異しと
いふは紙面
いふはとちふは
異し

まゝの
浅野山アサヒ
田畑をくづむ
そと境を及ぶ
神威良妙
誰の
作



○榛名山の
神威を旅所
の壇場あり又
方以溪を隔
向の赤松
峯を陽九月
九日赤松神典
遊行者
あり中の鑑
奉て

榛名山

鳥渡敷人
清水吉敏

女村と野別

榛名山

身同

可成

女の人々の事
源流等もあや

○八事松島を
間も穿たぬ此

不測の事あり明神
通を極めし松井

因にあり風打峰を
載て西に渡り者

は驚きし性も
は驚きし性も

は驚きし性も

寺二棟の古松の纏
わ樹の葉も二羽の

鳥の羽代に松島
の鳥の葉もい本

の鳥の葉もい本
の鳥の葉もい本

の鳥の葉もい本
の鳥の葉もい本

の鳥の葉もい本
の鳥の葉もい本

の鳥の葉もい本
の鳥の葉もい本

筆のしるし
中と返るも
妙義詣の
復小島
下に石

妙義詣の
復小島
下に石

復小島
下に石

下に石

下に石

下に石

下に石

下に石

下に石

下に石

下に石

又海の邊に...
 不動の...
 子の...
 外に...
 貴山...
 山...
 小...
 ○...
 傳に...

河海...
 流...
 本戸...
 約...
 人...

四...
 國...
 わ...
 金...
 二...
 月...
 名...
 金...
 前...

神...
 城...
 寺...
 南...

○祝祭の旨のた
 みる考の傳
 門の傳の流
 偏入の者の
 云及の角
 一の
 謹
 ○本
 若
 流

萬
 東
 端
 皆
 終
 雨
 社
 社
 社
 社
 社

國
 大
 本
 少
 中
 乃

泉
 乃
 下
 松

○業師堂の福
 瑞光佛日月二光
 土神將天法高西
 堂堂十八伽藍
 と此中堂の事
 とわお高後
 者重教百六
 下わりの此
 不獲屋洞七通
 聖金剛行堂祝

為子
 又此
 堂師の
 塔わりの
 多釈自
 首釋
 法堂の
 向
 右人の

着
 總
 叶
 從
 法

取
 叶
 女
 亦
 尾

天の御

あつち

○本塔の

藤水の

雲水

○山供

宮殿

○二羽の鳥

○建久年中

後日松と

松と

松と

松と

松と

松と

松と

松と

松と

松と

太政官は麻堂
舟橋名は山
地と云
舟橋名は山
地と云
舟橋名は山
地と云

ルナ

ルナ

あく見く右の瀆はる
総下川の色の紅色深淵
とて一里の中は雲
縹より南有翠屏海
岨は白雲山合

洞金竊乃山と秋のこ
可深増葉はる巻
雄沐の山乃紅葉はる
伝濃ある海は嶽は深ぬ
嶺は野中可神門

小入遊水峰、本松花
河、水、葉、色、は、異、な、り
八咫鳥の故事を訊く
瀬、坂、之、水、平、痛、喘、坑
数、く、れ、山、坂、越、く、建、つ、る

江戸町、今、日の、御、舟、等
と、し、酌、之、葉、内、子、と
雇、之、對、二、の、洞、乃、鶴、栖、を
入、右、小、出、後、殿、寺、湯、乃、院
本、小、巖、山、管、轄、の、山、別、當

東なり神橋渡仁門
二力士と運搬の門才一乃
兼素岩の礎乃万丈の
冷炭石を運搬の魂を
清乃下は煉と千段乃

溪洞水清く石壁岩
の岩は潜居の峯乃嵐
友乃心素と蝶乃の
花乃心素と袖摺乃
石門乃心素と橋乃

波きり取石以者位あり
年泉歴席楓の青葉
を戴神ありまは正氣
孤立せる嶺岩清浄石
と心平に潤あり深淺を

知れぬ山神社此岩洞あり
宮極大敷きまは高知
て標名の神社此記
途蹟と符あり
大神清浄地あり正殿

土の清祖埴山神 葦原祭
國常杵神 伊弉諾伊弉
咩母神 大己貴神 和
彥彥速日神 宇摩志味
神 彥湯又神 一宮

居少從いさよりいさよ
軍陣陰陽醫藥農
氏高貴弟氏大祖の神
舟まの舟小上古の舟
上皇人より上億兆の君

生にあり湯地地まふ
西の神海
山より湯を
今此御前
思ひ出づる感海袖

海部少中地雲勝軍
地系階壇和光回慶大
悲代史者のあはれに支
大師堂護摩の書也目
不防か烟るく凡の内あ

如持社東社九十九社と
多悲深穉早まぬ
の江志一十河川情
くふりも形と出ま
沙番本と毎り砥澤乃

男根石と翁と借と神
峰山中と熱眼下と湖水
赤花と返照波滄小
映と赫と手と色と露と
遠响とと暖風と烟と

拂ひ湖のまはり方

頃乃水西瞬の百に陰晴

明滅子愛方の岩連丹

喜乃形空をくみぬあは

小魚の水中に躍る群鹿

野山遊るはまの人を畏

る小殺生の苦れゆき

知る家富士の嶽の波河

あふむ松の葉のゆき

安穩のこころ鳥羽をよ

髪への下巻のり巻
江の太い巻のり巻
よりの古巻のり巻
り巻の古巻のり巻
如河のり巻のり巻

下巻のり巻のり巻
思ひのり巻のり巻
古巻のり巻のり巻
高巻のり巻のり巻

自戒の心は日ごと
社を以て富を求むる
能くも亦く心は
佛に増す善なる
下事成す善なる

海邊の舟多し
舟中の物は皆
舟に勝る
舟に勝る
舟に勝る
舟に勝る

